

民主青年新聞

●ホームページ www.dylj.or.jp ●Eメール minsins@dylj.or.jp

見どころ

原発ではなく再エネの活用を (3面)

みんなはどうしてる? 高校生の「SNS事情」 (6、7面)

ブックレット『科学的社会主義Q&A 学生オンラインゼミで語る』のすすめ (10、11面)

アメリカで相次ぐ労働組合結成

今アメリカでは、アップル、アマゾン、スターバックスといった大企業で労働組合の結成が勝ち取られています。アメリカ各地に広がる労組結成の背景にある社会情勢や青年の変化について、全国労働組合総連合(全労連)国際局長の布施恵輔さんに聞きました。(写真は全て布施さん提供、今井千尋記者)



▲MITの院生労働組合がキャンペーン中に作った写真ポスター。今米国ではたくさんの人が参加していることを発信して一気に組織化を進める手段として用いられている



▲レイバー・ノーツ大会の会場は熱気に包まれた



▲MITの組織化キャンペーンチームの青年たち

彼らは労働組合を欲しがっている

米国で労組結成が相次いでいますが、何が起きているのでしょうか。

全労連が長く交流している米電気機械無線労働組合(UE)に参加する青年によ

ると、アメリカでは、大

きく3つの分野で労組の組

織化が進んでいるのが特徴

です。今年4月1日、米二

ユーロ市のスタン島

ス、物流といった高い技術

を必要としない新しいサー

ビス分野の仕事(特殊な訓

練は必要)、2つが教育、

介護など高い技術がありな

から雇用が不安定で低賃金

な仕事、3つがグーグルの

親会社アルファベット、二

舗で労組結成が広がり、32

州204店舗が認証選挙

(※)に勝利しています

(7月27日時点)。両社に

加者は約4千人。レイバ

ー・ノーツとは、たたかう

労働組合の人たちが交流す

る自主的な組織で、雑誌の

発行や労働学校、ワークシ

ョップを全国で行っていま

す。大会で印象的だったの

が「彼ら(青年)は労働組

合を欲しがっている(They

want a union.)とい

う発言です。自分の職場に

組合が欲しいという発言

や、ストライキでたたかう

ことの重要性が強調されま

した。米国では80年代のレ

ーカン政権による組合弾圧

によって組織率が下がりが

続していますが、職場を変えたいと思っ

ている人がたくさんいるの

が今のアメリカなんだと分

かりました。

▲レイバー・ノーツ大会にて。アマゾン労組のクリス委員長(右から2番目)と布施さん(右端)



米国での労働組合の組織化(※)

米国では使用者側と協約交渉ができる労働組合を結成するためには、各職場の労働者の3割以上の人から賛成の署名を集めて全国労使関係委員会(NLRB)に申請をする。その後、NLRBが管理する下で行われる認証選挙で過半数の賛成票を獲得する必要がある。NLRBの規則が使用者側に有利なものが多いことから、労働組合側に不利な制度となっている。

しかし、2022年は前年同期より認証選挙への申請数が57%増となっている。

6月17・19日、シカゴで4年ぶりにレイバー・ノ

(2面につづく)